

令和6年度 えんがわファンド 実施報告



えんがわファンド2024【申請団体】一覧表

(申請順)

	団体名	申請内容	申請額	交付額
1	調布市難聴者体操の会	聴覚に障害がある人も楽しめる体操の場づくりのための要約筆記謝礼、講師謝礼。	100,000	100,000
2	ちょうふ読み語りの会	地域の高齢者や子どもたちへの読み聞かせ、紙芝居を行うための紙芝居舞台の購入費、勉強会のための室料。	68,190	68,190
3	電車っ子Party	父親や子どもが親しみを持ちやすい鉄道をテーマにしたイベントのための玩具・書籍・文具代、講師謝礼、広告宣伝費、会場費の一部。	100,000	100,000
4	一般社団法人えねこや	脱炭素社会に向けた「持続可能で豊かな省エネルギー型の暮らし」への啓発活動のためのリーフレット作成費、ワークショップ材料費、講師謝礼、総会の講師謝礼。	100,000	62,950
5	デジタルペイントハウス	孤立している、不安を抱えている子どもや若者に対して、デジタルイラストを通じた居場所を提供するための会場費、機器の購入費。	64,023	64,023
6	給食Action調布	古来より受け継がれてきた伝統的な和食をテーマにした映画の上映費用の一部、会場費、講師謝礼金、広告宣伝費。	90,630	60,630
7	たま川お手玉の会	伝統文化のお手玉、昔遊びの継承・体験活動のための材料費、広告宣伝費。	51,293	29,493
8	はちみつルーム	様々な年齢や背景を持った一人ひとりにとって、利用しやすく、安心感のあるくつろぎの場を運営するための活動補助費、広告宣伝費、消耗品費の一部。	100,000	100,000
9	地域環境科学研究所	湧水を含めた野川流域の水環境調査、子どもたちへの保全啓蒙活動を行うための水質調査機器、水質調査キット/ろ紙、採水・分析用ボトル購入費、助手謝礼金。	100,000	100,000
10	ワンツー水曜会	地域の高齢者とともに転倒予防体操を定期的に行うための講師謝礼、教室の利用料金、雑費の一部。	100,000	70,000
11	NPOつなぐ	市民が求めている生活支援を幅広く提供することを目指し、人と支援とを“つなぐ”ためのチラシ作成、印刷費。	100,000	15,616
12	minglelingo(みんぐるりんご)	飛田給地域の居場所「トビパコ」の終了(2025年2月)に伴い、そこで得られた知見を冊子化するための編集費用の一部。	100,000	80,000
13	アトリエこどもの森 感性教育研究所	アトリエの夏合宿時の講師謝礼。子ども哲学対話の講師謝礼、紙、インク代	46,000	0
14	緑ヶ丘のお家 マオ・マオルーム	子どもの異年齢交流、子育て世代の交流、高齢者世代の交流を目指した居場所運営のためのチラシ作成費、イベント謝礼金、施設利用料、活動費。	64,702	64,702
15	生きづらわーほりプロジェクト	生きづらさを抱える人の語りの場「ちょうふのこやど」の運営および、イベント(ハートtoハートちょうふ懇談会)開催のための会場費、印刷製本費、消耗品費、謝礼。	100,000	77,530
	合計		1,284,838	993,134

1. 調布市難聴者体操の会



【事業実施状況】

令和6年度4月～令和7年度1月まで 参加者365名。見学者6名。

令和6年8月5日 調布サマーボランティア 5名参加

令和6年8月19日 調布サマーボランティア 4名参加

【5つの選考基準からの評価】

聞こえない人も、高齢者も、聞こえる人も、だれもが参加できる。

【今後の展望】

- ・会員を増やす
- ・広報を積極的に行う
- ・会費の値上げ

【交付金額】 100,000円

- ・要約筆記者謝金
- ・体操講師謝金

2. ちょうふ読み語りの会



【事業実施状況】

4月～3月まで定例開催。ちょうふの里約200名・カノン調布55名・ふみ月チャレンジ染地約165名・深大寺保育園約240名・小学館アカデミー240名
11月16日あくろす男女共同参画推進フォーラムしえいくはんず9名
大人食堂より依頼を受け、30分程度紙芝居20名

【5つの選考基準からの評価】

- ①読む人以外の歌や手遊び等を加えることで聴いてくださる方が充実した時間を過ごせるよう考えていること(公益性)
- ②従来の活動に加えて自発的に会員が様々な工夫努力することで変化している(先駆性)
- ③活字離れの流れが加速している中で子供たちに本を読む喜びを伝えたい(緊急性)
- ④20年余り継続して活動を続けているところ(継続性)
- ⑤最近イベント参加、定例会以外にも活動範囲を広げております(地域性)

【今後の展望】

訪問した先の人たちの心に寄り添うような語りをしていきたいと思っているので、継続した学びが必要だと考えています。講師を招いた講習会、ワークショップ等も視野にいれております。活動場所も、従来に拘らず地域コミュニティ等への積極的な参加を考えております。

【交付金額】68,190円 ※2,640円返還

- ・紙芝居舞台料金
- ・携帯用舞台料金
- ・勉強会要室料金

3. 電車っ子Party



【事業実施状況】

①4月～3月まで定例イベントを11回（4/7 6/8 6/19 7/7 7/13 9/18 9/22 12/18 2/2 2/5 3/9）

他団体との共催等で2回（9/19 10/9）、計13回開催 参加者のべ165名（3月分除く）うち平日に5回開催 場所はまんまる6回、多摩八角堂(多摩市)4回、トビバコ・西部地域福祉センター・和泉多摩川地区センター(狛江市)各1回

②6月～1月 主催イベント「電車っ子Party Special」を5回（6/30 10/12 11/30 12/22 1/25）開催 参加者のべ188名参加 うち4回は小学校低学年も対象。1回は全年齢対象 場所は、西部公民館2回、たづくり・西部児童館・まんまる各1回

講師は、絵本作家西村繁男氏、家庭科教員、Green Mind Pebbles、シニアバンド「DreamBand」、盲導犬ユーザー愛沢法子氏

③10月～3月 チャリティーウォーク・まち活フェスタをはじめとした地域イベントやマルシェに計8回（10/26 11/2 11/24 1/18 ②/9 3/2 3/22 3/29）出店 171組参加（3月分除く） 場所は、国領駅付近3回、多摩八角堂2回、西部公民館・稲田助産院・関戸公民館各1回うち11/2・11/24・2/9・3/29のイベントは西部公民館・調布企画組・稲田助産院・多摩市立関戸公民館に依頼を受け参加。

④2/2の定例イベントは父親にフォーカスしたイベント「電車っ子Party for PAPA」として実施。通常プログラムに加え、父親向けに子供とカラダを使って遊ぶプログラムを実施。8名の父親が参加。

⑤絵本(古本)の販売を試行的に開始（9/22の定例イベントより）。

おみくじ形式の導入および乗ったり座ったりできる電車の形をした本棚を製作・導入。累計販売数24冊（1/18マルシェより）。これまで、絵本の読み聞かせや展示を行っていたが反響が少ないことから、絵本を家庭に持ち帰ることで、親子で親しんでもらえると考えたため。

⑥ワークショップを試行的に実施（10/26イベントより）。累計参加数18組。

⑦6月23日・10月27日『稲田助産院』に依頼を受けパクラス講師、3月30日「OLIVE」（多摩センター）に依頼を受けパパ読み聞かせスタッフで参加

⑧7月26日「Technology Creatives Program」（東工大・多摩美大・一橋大価値創造人材育成プロジェクト）に依頼を受け講師として参加

【5つの選考基準からの評価】

- (1) 公益性：毎回半数前後の家庭で夫婦での参加または父親のみの参加(推計累計父親参加数160名程度)があり、父親の育児・地域参加という点で一定の効果があった
- (2) 地域性：参加者の多くが市内在住の家族である点、市内で活動している団体等を講師としてお招きしイベント開催している点で、地域に根ざした活動であった
- (3) 継続性：継続的な参加者と、高齢者や学生等の支援者が現れ始めた点において、継続的・発展性のある活動となり得る。一方で父親の継続的な参加・運営参画は、仕事と育児家事の両立の中では、工夫が必要であると考えられる。また今度の活動継続においては、特に多額の持ち出しの費用が発生した広告宣伝費の面での支援の必要性を感じた。
- (4) 共感性：ミッションである父親の育児・地域参加が促進され、実際に毎回満員に近い参加者数であったという点で、市民の共感を得られた
- (5) 先駆性：既存の他団体等主催の「父親」をテーマとした講座・イベントから、父子が親しみを持ちやすい「鉄道」をテーマにして、父親の育児参加・地域参加を支援していく活動という点。新たに、本をテーマにした取り組みの実施やワークショップの実施を通して、子供の創造性を育む活動と考えられる点。

【今後の展望】

今年度の活動を土台に引き続き、えんがわファンドの支援をいただき、父親の育児参加・地域参加の推進を行いたい

実施形態について

- ・定例イベントの継続的な開催
- ・地域イベントやマルシェへの参加

内容について

- ・父親にフォーカスしたコンテンツの展開
- ・本・絵本(鉄道関連)をテーマとしたコンテンツの展開
- ・鉄道模型を活用した小学生向けコンテンツの実施

【交付金額】100,000円

- ・玩具、書籍、文具代
- ・講師謝礼
- ・広報宣伝費
- ・会場費

4. 一般社団法人えねこや



【事業実施状況】

◆ホームセンター等の材料で簡単な内窓づくりを体験できるワークショップを3回開催。

- ・6月8日(土) 調布市環境フェア 断熱内窓DIYワークショップ (参加者10名)
- ・6月29日(土) 第8回えねこや総会+断熱セミナー・ワークショップ (参加者25名)
- ・11月16日(土) 調布市環境講座② 断熱セミナー・ワークショップ (参加者9名)

*断熱セミナーでは、講師の北川氏が自宅の断熱改修の経験を踏まえて分かりやすく断熱の重要性を解説。いずれの開催時にも、「断熱ボックス」を使い、参加者にシングルガラスとペアガラスの比較体験をしてもらった。

◆えねこやリーフレット改定版製作 2000部印刷(2024年4月印刷)

【5つの選考基準からの評価】

◎断熱ワークショップ：気候変動により年々厳しくなる暑さ、寒さ対策として、家の断熱が注目されつつある中、体験型のワークショップを通して、市民に具体的行動につながる体験と情報提供ができた。参加者から、「自分の家がなぜ寒いのか分かった」「講師の体験談は説得力があった」「早速内窓キッドを購入した」「こうした実践的な講座を広めてほしい」等の感想が寄せられた。初めての企画で試行錯誤もあったが、回を重ねるごとにノウハウが蓄積されていった。今後は、SNSなどでの広報の工夫が課題。

◎リーフレット改定版：現在の活動を反映し、写真を多用し、新たにQRコードを入れる等、視覚的に分かりやすいリーフレットを作ることができた。今後も様々な場面で配布していきたい。

【今後の展望】

「脱炭素」と「気候変動への適応」という両面で、市民一人一人の取り組みとして、断熱は今後も重要性を増していくと思う。今回の3回のワークショップのノウハウを生かして、来年以降も実践につながる体験型ワークショップやセミナーを開催し、自治体の再エネ・省エネに関する助成金情報などと併せて、市民に役立つ情報提供を行っていきたい。より多くの市民に参加してもらえるよう、自治体や企業などと協働したり、イベント告知の工夫をしていく必要がある。今回は大人を対象とした講座だったが、環境教育の視点で親子で参加できる企画も考えていきたい。

【交付金額】62,950円

- ・えねこやリーフレット改訂版印刷代一部・内窓制作材料費一部・ワークショップ講師謝礼

5. デジタルペイントハウス



【事業実施状況】

4月7日（金）より、2月28日（金）まで定例（月2回）定例開催（3月予定14日28日）
参加者のべ112名（2月14日現在）支援ボランティア参加のべ104名（2月14日現在）
10月26日チャリティウォーク参加4名 布田天神社つくる市参加参加者5名

【5つの選考基準からの評価】

- (1) 公益性：支援関係の方々にチラシや案内を配布し、活動を紹介してもらっている。活動を続けているうち、参加者が増えてきている。SSCの方の評価もある。SNSを見て参加してくる人もいる。
- (2) 先駆性：若者が支援活動を展開している。デジタルによる活動の展開をしている。参加してくる若者や子どものデジタルイラストへの興味関心が強い視点がうかがえる。
1人でイラスト制をしている若者子どもが居場所や関りを求めて参加してくる。
- (3) 緊急性：不登校や引きこもり状態、生きづらさを抱える若者や子どものケアや参加者のつながりをつくり自己の存在感や肯定感を強める必要がある。広場として共同の場の必要が見られる。
- (4) 継続性：参加者の多くは継続して参加をしている。参加者の紹介による参加もある。
イラスト作成を中心にして、布田天神社つくる市にも参加。チラシやカードを作成し販売した。
- (5) 地域性：今年度は活動初年度の為、活動を模索しながら行っている。現在の活動のリズムが定まってきたら地域の不登校や生きづらさを抱える若者子どもの支援の場などにつながっていきたいと考えている。支援ボランティアも広めていきたい。布田天神つくる市などのように地域のイベントへの参加も考えていきたい。

【今後の展望】

今年度と同様の活動展開を継続していく。参加者の共同の活動の場として関係性を深め、互いの生き方を支える場としていく。参加者の要望に応答する活動を加えていく。
フリーマーケットや布田天神社つくる市の参加を年に2回行いたい。他の支援の活動の場との連携を考えたい。支援ボランティアの広がりを作る。保護者との連携を深めたい。

【交付金額】64,023円

・たづくり小会議室会場費 ・画材、用紙購入費

6.給食Action調布



【事業実施状況】

上映会に向けてや活動について毎月定例ミーティングを開催。6月には調布市学務課出前授業を開催。9月29日は上映リハーサル 10月4日上映会44名、10月5日は26名参加。合計70名参加。市議8名や地元農家、歯科医師、保育園関係者、保護者、子ども様々な方々に上映会にお越しいただいた。

【5つの選考基準からの評価】

- (1) 公益性：すべての子どもたちにかかわる食育、給食をテーマにした上映会を開催
- (2) 先駆性：給食をテーマにした市民団体による上映会は市内で初めての開催。
- (3) 緊急性：2024年度より給食の無償化がスタートし、給食の質の低下が懸念されたため。
- (4) 継続性：継続して活動している。
- (5) 地域性：上映会には地元の市議、農家、保育園職員、歯科医師、飲食店、調布市内の小中学校保護者等の地元の方々 多数ご参加いただきました。

【今後の展望】

本年度は3月に内部向けの勉強会を開催予定です。本年度および来年度以降、いただきます上映会にお越しいただきました市議8名と意見交換を行い、よりよい給食を調布市内で実現できるよう活動を継続し、行政や地元農家、学校関係者などとも連携し、内部、外部向けに勉強会や上映会を企画開催していく予定です。

【交付金額】60,360円 ※595円返還

- ・上映会費用の一部
- ・会場、機材レンタル料
- ・講師謝礼金、講師旅費
- ・チラシ等の印刷費

7.たま川お手玉の会



【事業実施状況】

イベントに参加(染地ボランティアまつり70名参加、国領わいわいまつり50名参加、深大寺小学校ふれあいまつり、染地小 等)

教育の場、小学校にて市内外9校、子育てセンター、保育園3ヶ所。介護施設(医療)訪問する。

保育園(市内外6)にてお手玉をプレゼントする(400個)

CDラジカセ、スマホ教室に参加して、スマホの活用を教えてくださいました。

【5つの選考基準からの評価】

高齢者の居場所作りとして、地域福祉センター、市民活動支援センターで定期的に月3回続けている。常に10～15人参加あり。各地域のイベント(教育、保育の現場)に参加することで多世代交流が図れた。チラシを製作したこと、地域福祉センターに掲示したことで興味を持ち参加したり声をかける人が増えました。

【今後の展望】

伝承遊びを意図的に伝えていくために「昔遊びの日」を決めて参加してくださいましたので、ボランティア育成(昔遊び)を積極的に働きかける。

【交付金額】 29,493円

- ・活動チラシ作成費
- ・お手玉材料費

8. はちみつルーム



【事業実施状況】

毎月第1, 3の13時～18時(2024年から30程度短縮)に金子地域福祉センターにて多世代が予約なしで無料で集える場を提供。2024年4月～2025年1月の合計19回開催し(1回休止)、来場者のべ609名(乳幼児161、小中高生150、大人298) 運営スタッフ2名、ボランティアスタッフ9名、合計11名。おもちゃや絵本などの遊びのコーナー、赤ちゃんコーナー、カフェコーナー他を設置し来場者の方との交流、見守りを行った他、活動時間の中で読み聞かせ、わらべうた、工作、体操、学習サポートを行った。

また、8月6日に「手話に親しもう」のイベントを開催し、8月に「サマーボランティア」にて大学生の受け入れ、9月には「#学校ムリでもここあるよ キャンペーン」、10月には「ちょうふチャリティーウォーク」に参加した。また新規にチラシを1000部作成し、裏面には優しい日本語バージョンを印刷し配布、掲示している。

【5つの選考基準からの評価】

(1) 公益性：広い空間の中で、様々な世代、様々な立場の方にとって、予約なし、無料で集える場所、スタッフによる見守りのある場所を提供した。赤ちゃんにとっては、安全でゆったりと遊べる空間、子どもにとっては初めて会う子ども同士で安心してのびのびと遊べ、無料でお茶を飲みお菓子を食べられ、大人に勉強のことを聞ける環境の提供を心掛けた。また、大人にとっては、新しい出会いや何気ない会話がある安らぎの場、きっかけの場の提供を試みた。来室者は0～90歳の方まで幅広くなっている。

(2) 先駆性：対象者を限定せず様々な年齢や立場の方が交わる場として、また、無料、予約なしで利用できる場として開催した。また、支援の場ではなく、だれもがフラットである関係性の場として希少性があると考え。来室者の方や子どもが、はちみつルームで得意なことを披露したり、運営を手伝ってくださったり、スタッフになってくださったり、また、大人と子どもと一緒に遊ぶ、何かを作る、本を読むなどの思いがけない世代間の交流が生まれた。

(3) 緊急性：人と人との繋がりが薄れている社会の中で、はちみつルームは、あいさつや何気ないおしゃべりができる関係を作るきっかけの場ともなっていると考える。

特に、一人暮らしの高齢者の方や、乳幼児を育てる保護者、不登校の子ども、外国人の方など、社会で孤立しがちな方が気楽に集える場所となれるように活動しており、そのような方の来室が増えている。

(4) 継続性：4月～1月では1回のみスタッフの都合でお休みとなったが、その他はコンスタントに月2回場を開き、常連の来室者の方が増えている。また、安定して活動するために、全スタッフによる活動後の振り返りや、スタッフミーティング(約2～3月に1回)、事務局ミーティング(月1回)を行った。また、スタッフの心得として作成したガイドラインに、スタッフ全員にサインをいただくなど、組織としての行動規範やルールを確認した。また、はちみつルームの情報を月に1回、一斉メールや公式LINE、XやInstagramでもお知らせしている。

(5) 地域性：はちみつルームでは、近くの神代団地での取り組みに際して、はちみつルームで作ったこいのぼりや笹飾りなどを飾らせていただき、また、近隣のボランティア活動や居場所事業、イベントについてチラシをはちみつルームに置き、ご案内もしてきた。また、はちみつルームでの出会いから来室の方同士の活動コラボレーションが生まれたり(例：「電車っ子Party」さんと「ハルノキに。」さん)、市民活動をする者同士の繋がりも生まれている。

【今後の展望】

これまで、来室される方が安心して寛ぎ、つながりあえる場を作り出すことや、またスタッフ体制を整えるなど安定した運営を心掛けてきた。その中で、来室者の方の中に、「こういうことをやってみたい」という意見が見られるようになってきた。そのため、来年度は、安定した運営を行いながら、来室者の方が活躍できるように場を整える視点を持って、活動をしていきたい。

具体的には、来室者の子どもや大人の中から、「ベビーマッサージを教えたい」、「書道や写経をやってみたい」、「手品を披露したい」といったお声をいただいている。これらのそれぞれの方の得意なことや好きなことを通じて、地域とつながりあえる場として、来てくださる方をサポートできるような場所を目指していきたい。また、来年度の運営費については、引き続き、様々な助成金について検討しながら、寄付を募りやすい体制づくりや、スタッフの負担の少ない収益滋養を模索していきたい。

【交付金額】 100,000円

- ・活動補助費の一部
- ・広報宣伝費の一部
- ・消耗品費の一部

9. 地域環境科学研究所



【事業実施状況】

【1】2024/7/13 柏野小学校4年生の水環境調査に関する特別授業を予定して朝学校に集合したが、雨天順延となり打合せのみとなった。（講師2名、助手2名）

【2】2023/10/18 特別授業実施（講師2名、助手2名）

3クラスを3班ずつに分け、1時間目は班ごとに野川や用水路へフィールドワークに行き、6地点で水を採取。2時間目は集めた水を使い、児童が実際に水質検査を体験。

給水時に小雨が降っていた影響で、採水地点による検査結果の違いが現れ、より分かりやすかったと思う。

【5つの選考基準からの評価】

- ①公益性として：佐須の野川・用水路の水質調査と小学校4年生対象の授業を行い、令和6年度の「身近な水環境の全国一斉の調査」への報告を行った。
- ②継続性・地域性として：昨年度に続き、柏野小の4学年に対して、佐須地区の水環境について学ぶ機会として出張授業を実施した。昨年は授業当日の気温が高く、児童は授業の一部をオンラインでの見学となったが、今年度はフィールドワークを経験させることができ、こどもたちの身近な水環境への意識を高めることができた。

【今後の展望】

野川とその周辺の用水路は安全に水際に近づくため、小学生児童と一緒に水環境調査を行うには、うってつけの場所であるが、小学校でも特別授業を行う時間枠を取り難くなってきており、少ない時間枠と講師人数で、1学年全員への指導を十分出来たかという点、質問に答える時間を取れなかったなど、不十分なところもあった。講師と学校側の日程の調整も容易ではない。

今後は単一の学校の授業としてではなく、市内全域の児童を対象に参加者を募集し、佐須ふれあいの家などを利用して行うことも検討したい。

【交付金額】100,000円

- ・水質調査機器購入費 ・水質調査キット、ろ紙購入費
- ・採水、分析用ボトル購入費 ・助手謝礼金

10. ワンツー水曜会



【事業実施状況】

2024年4月～2025年1月に活動を30回実施。延べ参加者数が354名。

会員数を増やす方法として、2022年に作成したチラシを配布。配布場所として、4ヶ所の地域福祉センター、調布市社会福祉協議会等に約500枚配布した結果、6名の方が入会。会員数23名になったが、3名長期欠席、4名退会。総会員数16名で実施している。

【5つの選考基準からの評価】

公益性・・・活動に参加し継続することで、健康な生活を維持することができ、そのことは積極的な社会参加に繋がる。

地域性・・・活動を継続することにより、会員同士の交流や交流から得た情報などが、地域に根ざした広がりを持つことができる。

継続性・・・チラシの効果によって会員数の増員を達成できたが、高齢者ゆえに病気や思わぬ故障等があり、会を継続していく上で課題が残る。

【今後の展望】

活動の目的である「健康で社会参加に貢献するため」には、引き続きチラシの配布や「市報」、「ふくしの窓」等に募集をかけ、また、活動周知も行いながら、一人でも多くの方が健康で豊かな社会生活を送れるように努める。

【交付金額】70,000円

- ・講師謝礼金の一部
- ・教室の利用料金の一部

11. NPOつなぐ

【事業実施状況】

チラシ作成、印刷ができなかった。（デザイン等をお願いしているボランティアさんの体調がすぐれずチラシが期間内に完成できなかった）

2024年 7月 法人様から車いすも載せれる車の寄付を賜る。

地域の移動支援など開始。拠点ある ふふ富士見の利用時は無料。

10月 次年度 訪問介護事業所の立ち上げのため サテライト訪問介護事業を開始

2025年 1月 3月に児童養護施設の高校3年生（卒園生）にPC講座を大学生と実施予定。

昨年度から比較すると依頼件数も増加。居場所を拠点に活動している為 顔の見える関係づくりができています。

【5つの選考基準からの評価】

- ①公益性 1回300円に加え調布駅までの送迎も300円にすることで地域の方々の利用しやすさを実感しました。
- ②先駆性 居場所活動を拠点にすることでのニーズ把握から実行できる可能性を感じることができました。
- ③緊急性 移動支援ができたことで電話1本で駆けつけ車いすで病院に届けることができました。
- ④継続性 法人化し訪問介護事業所を運営し、公的制度とも連動しながら地域支援を作っていく。
- ⑤地域性 困ったら ふふ富士見 と地域の方々もなっている
そこからまだ居場所活動を知らない方にも生活支援事業をきっかけに包括的な地域づくりを行っていく。

【今後の展望】

次年度は法人化し 訪問介護事業所を開所予定。ふふ富士見の居場所を拠点に地域の方々が安心して過ごせるよう 現在の生活支援事業、移動支援事業も継続して行う。

今後は居宅介護事業も視野にいれている。

居場所を拠点にした 生活支援事業のモデルケースをつくる。

【交付金額】15,516円 ※全額返還

・チラシ作成、印刷代

12. minglelingo (みんぐるりんご)



【事業実施状況】

- ・ 2年間合計13団体がトビバコを活用しました。
- ・ 2年間合計10のメディアに取材されました。
- ・ 2月24日フィナーレイベント：参加者45名、記念冊子配布

【5つの選考基準からの評価】

- (1) 公益性：公益活動を行う市民団体の拠点となった
- (2) 先駆性：完全無料の市民活動支援センターという点において
- (3) 緊急性：不登校の小学生が学校に行くようになった事例もあり、こういうことは早い段階（小学校のうち）で解消した方がよいという意味で。緊急性のある課題解決にも貢献した。
- (4) 継続性：物件の継続利用さえ可能であれば持続可能
- (5) 地域性：近辺のご家庭・団体が多く利用している

【今後の展望】

2025年3月より、同条件（2年間の定期借家）で再契約できた。

第二段は、新たなチャレンジとして、

- (1) 「ものづくり×ウェルビーイング」をテーマに、シェア工房で収益を上げる。
- (2) 参加する市民活動団体を委員会という形で、互いに相談しながらプロジェクトを創出できるような形を目指す。

【交付金額】70,000円

- ・ 講師謝礼金の一部
- ・ 教室の利用料金の一部

13. 緑ヶ丘のおうち マオ・マオルーム



【事業実施状況】

開室日/7月16日、8月5日、8月19日、9月2日、9月16日、10月7日、10月21日
11月18日、11月30日、12月2日、12月16日
各月のべ参加者10名 11月より各月洋服交換会のべ4,5名
イベント、夏休み直前ワークショップ講師堀江さんのべ8名
ハロウィンイベントのべ50名 言葉がけ講座 講師みなこ先生のべ7名
クリスマスイベント12月22日、26日のべ10名

【5つの選考基準からの評価】

公益性：年齢問わず地域の方が遊びに来てくれた
地域性：フリースペースだけでなく地域の活動に参加する
先駆性：異年齢交流型はあまりない
継続性：地域にてイベントやワークショップをする 地域の方々への認知、協力
ボランティアの継続

【今後の展望】

もっと沢山の地域の方々にも認知していただき、子どもたちや地域の方々にも「今日はマオマオルームに行ってくる！」と言われるような場所になれるよう引き続き尽力する。
いつかはNPOにしたい

【交付金額】64,702円 ※39,112円返還

- ・チラシ作成費
- ・イベント講師謝礼金
- ・施設使用料

14. 生きづらわーほりプロジェクト



【事業実施状況】

■ちょうふのこやど

ひきこもり当事者・経験者が集い、語り合う場を毎月1回開催した。

【実績（開催日、場所、参加者数）】

- ・2024年4月13日 調布市東部公民館、カフェ「空と大地と」 参加者6人
- ・2024年5月11日 調布市東部公民館、カフェ「空と大地と」 参加者9人
- ・2024年6月8日 調布市東部公民館、カフェ「空と大地と」 参加者6人
- ・2024年7月13日 調布市東部公民館、カフェ「空と大地と」 参加者5人
- ・2024年8月10日 調布市東部公民館、カフェ「空と大地と」 参加者3人
- ・2024年9月14日 調布市東部公民館、カフェ「空と大地と」 参加者2人
- ・2024年10月12日 調布市東部公民館、カフェ「空と大地と」 参加者2人
- ・2024年11月9日 金子地域福祉センター、カフェ「空と大地と」 参加者2人
- ・2024年12月14日 調布市東部公民館、カフェ「空と大地と」 参加者3人
- ・2025年1月11日 調布市東部公民館、カフェ「空と大地と」 参加者5人

■ハートtoハートちょうふ懇談会

ひきこもりに関する様々なテーマについて対話交流を行う会を4回シリーズで開催した。

【実績（開催日、場所、参加者数）】

- ・2024年7月28日 金子地域福祉センター 参加者8人
- ・2024年9月29日 調布市文化会館たづくり 参加者7人
- ・2024年11月24日 金子地域福祉センター 参加者1人
- ・2025年1月25日 金子地域福祉センター 参加者2人

【5つの選考基準からの評価】

(1) 公益性 ◎

ひきこもり当事者に社会とつながる端緒となる場を提供することができた。

(2) 地域性 ◎

地域の市民活動団体との連携につながった。

(3) 継続性 ◎

本助成終了後も継続的に「ちょうふのこやど」の活動を開催していく。

(4) 共感性 ○

活動に関して十分なPRができず、参加者数としては少なかつたものの、本助成の事業や団体の活動内容に共感していただけた。

(5) 先駆性 △

ひきこもりの長期化（いわゆる8050問題）に関して、より具体的なサポート活動の必要性を認識できた。

(6) 緊急性 ○

ひきこもりや孤立は昨今多くのメディアで取り上げられている課題であり、それに対するサポート活動を実施した。

【今後の展望】

「ちょうふのこやど」については、本地域における活動の基盤となっているため今後も継続して定期的に開催する。

組織をNPO法人化することによって運営体制面や資金面の強化を図るとともに、地域の他の市民活動団体等との関係づくりに継続して取り組み、活動の範囲や内容を拡大、発展させていく。

【交付金額】 77,530円 ※12,170円返還

- ・会場料
- ・チラシ作成、印刷製本費
- ・消耗品費
- ・イベント講師謝礼金